取組５

障害者の学びを支援する人材の育成

本取組の着実な推進のためには、地方公共団体の職員が障害者の生涯学習に関する考え方や先進事例を学ぶ必要性があることから、担当者を対象とした研修会を開催した。また、道教委が文部科学省からの委託を受けて実施する社会教育主事講習においても障害者の生涯学習を取り上げ、学びを支援する人材育成を推進した。

１　全道 14 教育局による「市町村担当者を対象とした指導者養成研修」の実施

○趣　旨　　市町村の障害者学習支援担当職員等を対象に、障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例についての説明や、障害の有無に関わらず、ともに学ぶ場づくりを進めるために地域の実情に応じた協議等を行い、障害者の学びの場づくりの担い手の育成を図る。

○主　催　北海道教育委員会

○協　力　北海道保健福祉部、北海道社会福祉協議会

○対　象　教育委員会職員、首長部局職員、社会福祉協議会職員　等

○会　場　各教育局で定める（オンラインによる実施も可）

○内　容

・説明「障害者の生涯学習の推進方策について～市町村に期待される取組～」

> ・国の障害者の学びに関する当面の強化策についての説明を通じて、障害者の生涯学習推進の意義や方向性、求められる取組についての理解を深める。
> ・障害の有無に関わらず、ともに学ぶ環境づくりに向けた取組の現状と課題について、先進事例から学ぶ。

・協議「市町村における障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりに向けて」

> ・市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた取組の充実に向け、各市町村の実情を踏まえた協議を行う。

２　道教委が受託する、社会教育主事講習において“障害者の生涯学習支援”に関する講座内容を設定

○地域共生社会と社会教育（生涯学習概論）

○特別な支援を要する人への学習支援（生涯学習支援論）

文部科学省委託事業「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」
令和４年度　障害者の生涯学習推進研究協議会　実施要項準則

１　趣　　旨

市町村の障害者学習支援担当職員等を対象に、障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例についての説明や、障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりを進めるための地域の実情に応じた協議等を行い、障害者の学びの場づくりの担い手の育成を図る。

２　主　　催　　北海道教育委員会（主管　実施教育局）

３　協　　力　　北海道保健福祉部　北海道社会福祉協議会

４　期　　間　　令和４年７月１日～令和５年１月31日までの間
（補足）※２月28日までフォローアップ期間とする

５　対象市町村　　各管内全市町村
※令和３年度～４年度で全ての市町村において実施する

６　参 加 対 象　　市町村教育委員会職員、市町村首長部局職員、市町村社会福祉協議会職員　等

７　会　　場　　各教育局で定める（オンラインによる実施も可）

８　日　　程

9:30 9:35　　10:20　10:30　　11:45

開会	説 明	休憩	協　議	閉会

※午前又は午後など半日日程での開催とする（２時間～２時間半程度）
※内容や時間は、各会場の実情に応じて柔軟に計画してよい

９　内　　容

①説　明：「障害者の生涯学習の推進方策について～市町村に期待される取組～」
説明者　各教育局社会教育指導班

・国の障害者の学びに関する当面の強化策についての説明を通じて、障害者の生涯学習推進の意義や方向性、求められる取組についての理解を深めます。
・障害の有無にかかわらずともに学ぶ環境づくりに向けた取組の現状と課題について、先進事例から学びます。

○説明資料については、本庁が作成する共通資料を活用する
○先進事例等の紹介については、本庁が用意する資料のほか、各市町村等の実情に応じた資料を各教育局において準備し活用する

②協　　議：「市町村における障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりに向けて」
進　行　各教育局社会教育指導班

・市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた取組の充実に向け、各市町村の実情を踏まえた協議を行います。

10　そ　の　他

・本協議会の実施に係る費用については、必要に応じて別途配当する
・配慮が必要な参加者がいる場合は、本庁担当者と協議し、必要な措置を講じること
（手話通訳、要約筆記、拡大文字資料　など）
・新型コロナウイルス感染症の状況により、日程やプログラムの内容を変更する場合もあること

文部科学省委託事業「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」
令和４年度　障害者の生涯学習推進研究協議会　実施報告

1　実施状況

(1)取組状況

・令和４年度については、全道110市町村で、研究協議会を実施することができた。

・令和３年度の68市町村と合わせて、178市町村全てで実施することができた。

(2)参加者

市町村教育委員会職員、市町村保健福祉担当職員、社会教育委員、スポーツ推進委員、社会福祉協議会職員、教職員、福祉事業所職員、社会教育施設職員、企業職員等

2　成果と課題

【成果】

(1)障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について説明することで、市町村で取組を担う人材の理解を深めることができた。

(2)障害の有無に関わらず共に学ぶ場をつくるため、教育や福祉などの関係者による協議を行うことで、現状や課題の確認や、今後の取組を推進する上での情報共有を図ることができた。

(3)障害者の生涯学習について、市町村で策定する各種計画に位置付けていくことの重要性を確認することができた。

(4)障害者の生涯学習も含めて、共生社会の実現に向けた取組への意欲を向上させることができた。

(5)本研究協議会の終了後、既存事業の実施方法や施設のハード面など、具体的な改善について検討を開始する市町村があった。

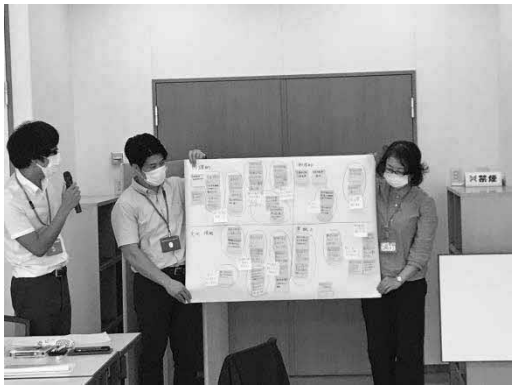
(6)本研究協議会の継続的な開催を求める要望が出され、持続的な人材養成の取組を期待する市町村や団体のニーズを確認することができた。

【課題】

(1)障害者の生涯学習については、市町村ごとに取組状況に差もあり、学びの推進を担う人材や多様な団体を結ぶコーディネート役など、中核人材の養成が喫緊の課題である。

(2)障害者の生涯学習の実施状況についての把握が不十分な市町村も見られるため、把握の重要性について継続的に働きかけることが必要である。

(3)道内各地の先進事例の収集と発信に努め、今後本格的に開始する取組への支援が必要である。



令和４年度社会教育主事講習プログラム	生涯学習概論	時間	30 時間	単位	2	形態	講義・事例研究

【科目概要】
　生涯学習及び社会教育の本質に関する、生涯学習の理念と施策、社会教育の意義と展開、生涯学習社会と学校・家庭・地域等の事項について講義等を通して理解を深める。
　北海道内で活躍する研究者に加え、より広い視点から学びを深めるため、文部科学省、北海道外の研究者を講師に招き、生涯学習及び社会教育の本質について理解を図る。

【ねらい】
①生涯学習の理念や振興行政の役割、振興施策の動向について理解する。
②社会教育の意義や特質、基本法令を踏まえた施策の展開、組織や施設等の仕組みを理解する。
③生涯学習社会における家庭教育、学校教育について理解するとともに、家庭・学校・地域の連携・協働について理解する。

	講座	時数	目標
生涯学習の理念と施策	生涯学習の現代的意義と生涯学習論の系譜 生涯学習振興施策の国際的動向 【講義】	4.5	時代の流れによる社会の変化や様々な国や地域における生涯学習概念の違い、生涯教育と生涯学習の関係などにふれ、グローバル化が進む現代における生涯学習の意義を理解する。 諸外国の生涯学習振興施策の動向について理解する
	生涯学習振興施策の動向 【講義】	1.5	地方創生、少子高齢化、グローバル化、人権等の今日的な課題に関わる国の動向や生涯学習関連の法令・施策について理解する。
社会教育の意義と展開	社会教育の意義と特質 【講義】	3	社会教育と生涯学習の関係、社会教育の定義と意義、特質、歴史的・国際的な展開、などについて理解する。
	社会教育の基本法令・施策 【講義】	3	社会教育に関連する法令や国の答申の概要やそれを踏まえた社会教育施策について理解する。
	社会教育行政の組織と役割 【講義・事例研究】	3	特色ある地方の社会教育行政の取組事例を取り上げ、実際の施策展開や社会教育委員の役割、教育委員会と首長部局との組織の枠組みについて理解する。
	地域共生社会と社会教育 【講義】	1.5	地域共生社会の実現について社会教育の役割を理解する。
	スポーツを通した人材育成・活用 【講義】	1.5	スポーツを通した地域人材の育成・活用について理解を深める。
	社会教育施設の意義と役割 【講義・事例研究】	3	公民館、図書館、博物館、青少年教育施設、女性教育施設、体育施設、文化施設、生涯学習センターといった社会教育施設の機能や役割について理解をする。
	今日的な課題における社会教育の役割 【講義】	1.5	北海道における社会の現状や課題に対して、様々な立場の方の視点や考えを聞き、社会教育の果たす役割について考えを深める。
	社会教育主事の役割と職務、社会教育関係団体と指導者 社会教育士に期待される役割 【講義】	3	社会教育主事の職務や社会教育指導者、社会教育関係団体、社会教育士に期待される役割を理解する。
生涯学習社会と家庭・学校・地域	生涯学習社会と家庭教育 【講義】	1.5	家庭教育支援の現状と課題や家庭教育支援に関係する実践事例等から求められている施策について理解する。
	生涯学習社会と学校教育 【講義】	1.5	生涯学習社会における学校教育の役割について理解する。
	家庭、学校、地域の連携・協働と社会教育の役割 【講義】	1.5	家庭、学校、地域の連携・協働に関係する国や地方公共団体の施策について知り、地域の教育力を活かした教育活動の実例を踏まえ、その意義や特質について理解する。

令和４年度社会教育主事講習プログラム	生涯学習支援論	時間	30 時間	単位	2	形態	講義・演習 事例研究

【科目概要】
　住民の自立と地域社会への参画意欲を喚起するため、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法の理解、学習プログラムの設計、プレゼンテーションの基礎、参加型学習の実際とファシリテーション技法等の事項について、講義や演習を通して学びを深める。
　北海道内外の大学の研究者や北海道で実践的な学びを提供している民間団体、国立教育施設経験者など多彩な講師により、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。

【ねらい】
①発達特性等を踏まえた学習支援に関する理論や学習支援の方法を理解する。
②学習者理解を深めるために、カウンセリングマインドについて体験的に学び、知識及び技術を習得する。
③参加型学習の意義や理論を理解し、参加型学習を運営するためのファシリテーションの知識及び技術を習得する。

	講座	時数	目標
学習支援に関する教育理論	生涯発達から見た学習者の特性 成人期・高齢期の教育理論 【講義】	3	乳幼児期、児童期、思春期、青年期等、生涯各期の発達段階と発達課題から導かれる学習課題について理解する。 成人・高齢者の発達特性について理解し、学習者に応じた学習内容や学習支援方法等があることを理解する。
	特別な支援を要する人への学習支援 【講義・事例研究】	3	特別な支援を要する人々の学習支援の方法について理解し、学習者に応じた学習内容や学習支援方法等があることを理解する。
効果的な学習支援方法	学習支援の原理 学習支援の方法・形態 【講義】	1.5	社会教育と学校教育との差異、生涯学習の実践の中で培われた学習支援など、生涯学習の各領域における学習支援の原理について理解する。 多様な学習者について、集合学習や集団学習の特性を踏まえながら、教育効果が高まるような環境作りを行うことの重要性を理解する。
	学習者理解とカウンセリングマインド 【講義】	3	カウンセリングマインドをもって学習者と接することの重要性を理解し、その基本的な考え方や手法を理解する。
	プレゼンテーションの基礎 【講義】	3	様々な事業や施策の説明に必要なプレゼンテーションの方法や効果について理解するとともに、基礎的な技術を身に付ける
学習プログラムの編成	学習プログラムの設計・運営 【講義】	1.5	住民の学習要求の把握や社会の課題に即した、教育計画とプログラムの構築について理解する。
	プログラム編成の視点 【講義・演習】	4.5	学習プログラムの立案について、最適な学習内容や提示、順序立て等を多角的に考えることの重要性を理解する。
参加型学習の実際とファシリテーション技法	学習支援方法としての参加型学習 【講義】	1.5	参加型学習の意義やねらい、参加型学習の種類とその特性を理解するとともに、参加型学習を運営するために必要なファシリテーション能力について理解する。
	参加型学習の実際とファシリテーション技法 【講義・演習】	9	ファシリテーターの役割や手法を理解するとともに、学習者同士の関係づくり、集団づくりにも効果があることを理解する。 様々な参加型学習を通した教育効果や手法について理解する。

取組６

障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討

北広島市や岩見沢市における取組を先行モデルに位置付け、芸術やスポーツをテーマとした地域協働型の事業を展開し、今後全道各地で取組を推進する上での方策や課題を共有した。また、北海道医療大学が実施した調査研究をもとに、障害者の学びの場の継続性を生み出す方策について検討を行った。

１　北広島市をモデル地域とした「市町村版地域コンソーシアム」の構築

○障害者の学びの機会拡充を目指して、行政・民間・高等教育機関等によるコンソーシアムを形成し、市民の障害者理解と、共生社会の実現に向けて、関係機関との協議の場を設定

○同市が継続してきたフレンドリーセンター運営事業を再構築

・アダプテッドスポーツの認知度向上

共生社会の実現に向けて、障害の有無に関係なく、誰もが楽しむことのできる事業「スポーツの秋！みんなのスポーツフェスタ」を開催するとともに、アダプテッドスポーツの認知度を向上させる動画を作成・活用

・学びを通した居場所づくりの取組

総合型スポーツクラブと連携して、全ての人の居場所づくり、健常者の障害理解の促進に向けて、障害の有無に関わらず参加できる学びの場「いんくるーむ」を開設

２　岩見沢市による「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」の取組

○学校卒業後の障害者が、北海道教育大学岩見沢校の教員や学生と関わりながら、芸術の鑑賞や制作について学ぶとともに、展示会の開催に向けて企画段階から関わるアートアカデミー事業に参画

３　北海道医療大学による「高等教育機関における「障害者の生涯学習」提供モデルの開発～モデル開発に向けたニーズに関する実態調査～」の取組

○特別支援学校の教員が捉える知的障害者の生涯学習ニーズに関するヒアリング調査と、障害当事者及び福祉サービスを提供する事業所を対象とする質問紙調査をそれぞれ実施

○それぞれの立場で感じているニーズや課題について、共通点や相違点を把握

障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業

障がい×生涯学習

～共生社会の実現と障がい児・者の学びの充実に向けて～

The Ambitious City
―大志をいだくまち―
HOKKAIDO
北広島市

北広島市教育委員会　教育部　社会教育課
主任（社会教育主事）古内　誠也

1

北広島市の概要

- 人口　57,569人（令和4年4月末日現在）
- 面積　119.05㎢平方メートル
- 姉妹都市　広島県東広島市
- 市の木、花　かえで、つつじ

事業スケジュール

R２

・職員研修会（8、10月）
・道コンソ参加
・関係団体への趣旨説明
~~・先進地視察~~

R３

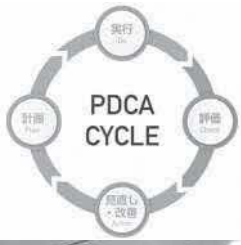
・市コンソ設立（10月）
・道コンソ参加
・キックオフ事業（ビッグフラッグアート制作ほか）
・新事業検討
~~・先進地視察~~

R４

・先進地視察（7月）
・市コンソ運営、新事業検討
・新事業①（いんくるーむ）
・道コンソ参加
・新事業②（みんスポ）
・事業成果まとめ

R５~　継続！

・市コンソ運営（ニーズ、課題、事業検討）
・事業実施



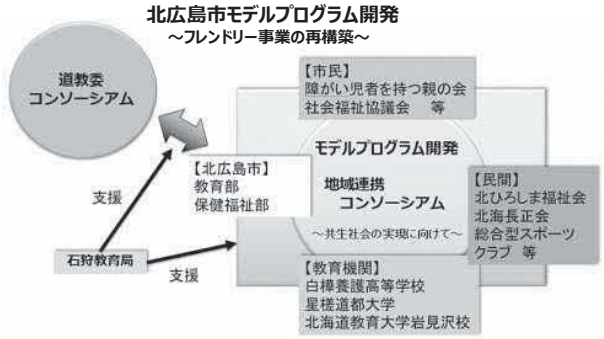
北広島市地域連携コンソーシアム

◆　Ｈ26年の障害者権利条約の批准やＨ28年の障害者差別解消法の施行等を踏まえ、学校卒業後の障がい者が社会で学ぶことができる体制の実現が必要となっている。
◆　本市では、H12年より障がい児者と健常者の交流機会の拡充や障がい児者の学びの場として「フレンドリーセンター運営事業」に取り組んできた。
◆　一方、事業プログラムの固定化、事業内容の改善・再構築に向け、関係機関団体等との協働の推進が必要となっている。

障がい者の生涯学習推進コンソーシアム事業

◆　文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業（3カ年）」を道教委生涯学習課が受託
◆　行政、民間、高等教育機関等による地域連携コンソーシアムを構成しフレンドリーセンター運営事業の再構築を図る
◆　研修会やコンファレンス、**モデルプログラムの開発等を実施**

北広島市モデルプログラム開発
～フレンドリー事業の再構築～



＜実施内容＞

（１）コンソーシアムへの参画
（２）地域の教育力と高等教育機関の融合によるモデルプログラム開発
・地域の障がい者のニーズの把握
・先進地視察
・プログラム指導者等研修会の実施
・障がい者向け、障がい者・健常者向けプログラムの実施・検証
・成果・課題を共有（コンファレンス等）　等
（３）社会教育のアプローチによる全体コーディネート
・モデルプログラム開発に係る調整・参画
・市内小中学校支援学級、近隣養護学校との調整・連携
・社会福祉関係部局、団体等との連携　等
（４）石狩教育局教育支援課の協力・支援

（成　果）
◆　障がい者の地域とのつながりの強化、障がい者の生涯学習機会の創出などフレンドリー事業の再構築が図られる
◆　市民の障がい児者への理解と共生社会の実現に向け、関係機関・団体や高等教育機関との連携によるあらたな事業の展開
※併せて、事業推進のための社会教育主事のネットワーク形成能力、関係団体との調整力、説明力等、資質・能力の向上が図られる

会議内容

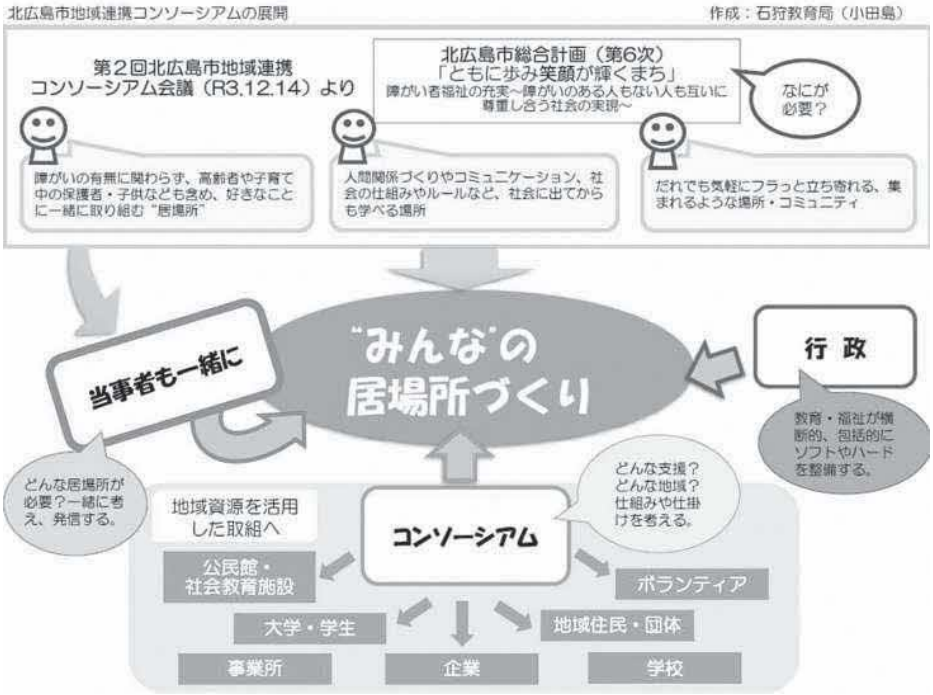
R3

- 10/4
  - 事業説明
  - ビッグフラッグアート制作事業について
- 12/14
  - 障がい者の生涯学習について
  - アダプテッド・スポーツ交流会について
- 2/28
  - アダプテッド・スポーツ普及動画作成について
  - 学びを通した居場所づくりについて

R4

- 7/26
  - 先進地視察の報告
  - いんくるーむについて
  - みんなのスポーツフェスタについて
- 12/6
  - 事業報告について
  - 道コンソーシアムの報告
  - 今後の市コンソーシアムのあり方について
- 2/21
  - 成果について
  - 次年度の計画について

コンソーシアムで見えてきたこと



共生社会の実現を目指してスポーツとアートで学びの拡充とみんなの居場所づくりをやっていこう！

ビッグフラッグアート制作事業（キックオフ事業）

- 市民の共生社会実現に向けた気持ちをアートで表現、障がい児者・子ども・高齢者・大学生等１００人以上で「ビッグフラッグアート」にチャレンジ！！
- 制作指導：Satoly（サトリー）

参加者実績

団体	人数		会場
すみれ保育園	16	人	すみれ保育園
社会福祉協議会	12	人	中央公民館
北ひろしま福祉会	10	人	
みらい塾	5	人	
星槎道都大学	14	人	〃
みらい塾	3	人	
しょうがい児者を持つ親の会	15	人	〃
北海道白樺高等養護学校	12	人	北海道白樺高等養護学校
北海道白樺高等養護学校	50	人	〃
西の里きらきら保育園	15	人	西の里きらきら保育園
~~地域サポートセンターともに~~	~~0~~	~~人~~	~~地域サポートセンターともに~~
8団体	**152**	**人**	

共生社会の実現に向けたシンボルに

北海道新聞　2022年（令和4年）3月5日（土曜日）

共生社会とは違いを認め合うこと

◂Satolyさん作、市庁舎に懸垂幕

【北広島】市教委は、吉本興業所属のアーティスト、Satoly（サトリー）さん＝釧路市生まれ＝と市民らが「共生社会」をテーマにデザインした懸垂幕を市庁舎に掲げた。

幕は縦10メートル、横90センチ。ピンクや緑で表現した道の先に、日の出と女子学生が描かれている。道には大小の手形が押され、違いを認め合うことなどを表しているという。

昨年11、12月にサトリーさんと市内の保育園児や高等養護学校の生徒、保護者ら約150人が、色を塗ったり、手形を押したりして絵を制作した。当初はイベントで披露する予定だったが、新型コロナウイルスの影響で中止になったため、懸垂幕にして公開することにした。

市教委によると、サトリーさんも「良いものができた」と話しているという。3月いっぱい掲示する予定。（後藤耕作）

だれもが笑顔あふれるまちに

Let's Create A Symbiotic Society

市庁舎に掲げられた「共生社会」をテーマとした懸垂幕

子どもの発達テーマ 26日に市内で講演会

【北広島】市内で児童のデイサービス施設を運営するNPO法人「フェアリー」は、子どもの発達をテーマにした講演会「SSHTとペアトレーニング」を26日午

沖縄「共同売店」の姿伝える

江別で写真展

【江別】地域住民が運営する沖縄県特有の小売店「共同売店」の姿を伝える「共同売店がある暮らし展」が10日まで、大麻銀座商店街のゲストハウス「ゲニウス・ロキ」が旅をした」（大麻東町13）で開かれている。

利用者や店の様子を大小約30点の写真やパネルで紹介している。

共同売店の魅力発信などを行う「愛と希望の共同売店プロジェクト」の主催。同ゲストハウスのスタッフが昨年、同プロジェクトと共同で動画撮影したことが縁で開催が決まった。沖縄県外での展示は初めて。

を務める。子どもの良いところをほめる「ペアトレーニング」についても触れる。

無料で、主に福祉・教育関係者、保護者が対象。先着50人。希望者は、同法人へメール（idoelm@mail.8m、電話（☎011・376・3980）などで申し込む。（後藤耕作）

病院　5日

原画

700㎝

アダプテッド・スポーツ普及動画

いんくるーむ（インクルーシブ×ルーム）

いんくるーむ（インクルーシブ×ルーム）

いろんなスポーツ体験会

参加無料 ・・・・ どなたでも ・・・・ 出入り自由

ボッチャやモルック、フロアカーリング、トリコロキューブなどいろんなスポーツを誰でも自由に楽しめる無料の体験会です。専門のスタッフがルールや用具の使い方を教えてくれます。時間内であればいつ来ていつ帰るのも自由です。

日にち		時間
8月7日（日）	9月25日（日）	10：00～
10月2日（日）	11月27日（日）	12：00
12月25日（日）	1月8日（日）	
2月12日（日）		

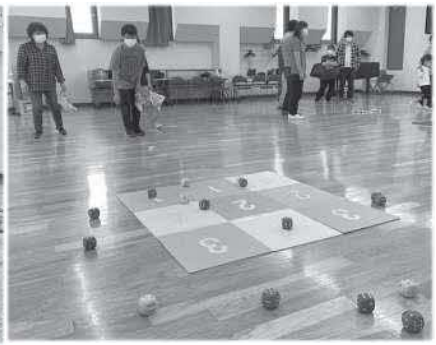
○会　場　中央公民館　講堂（北広島市朝日町5丁目1－1）

○講　師　一般社団法人　わくわくピース総合型クラブ

○申込み　直接会場にお越しください。

問合せ　北広島市教育委員会社会教育課
011-372-3311（内線 4844）

いんくるーむの様子



「いんくるーむ」に行けば、友達や知り合い、誰かがいて、一緒に何か学べる。
　学ぶことは二の次でいい。誰かに会うことが嬉しいし、楽しい。
　そんな「いんくるーむ」が市内に広がっていけば「笑顔あふれるまち」に近づける。

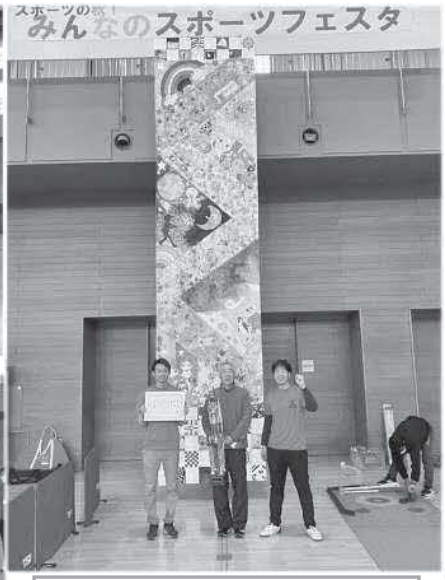
いつ来ていつ帰ってもOK！
スポーツしなくてもOK！
延べ参加者　約150人

スポーツの秋！みんなのスポーツフェスタ

共生社会の実現に向けた
シンボル的な大会へ！

ボッチャ大会参加者　20チーム/56人
全体参加者　約200人

みんスポ_ボッチャ大会



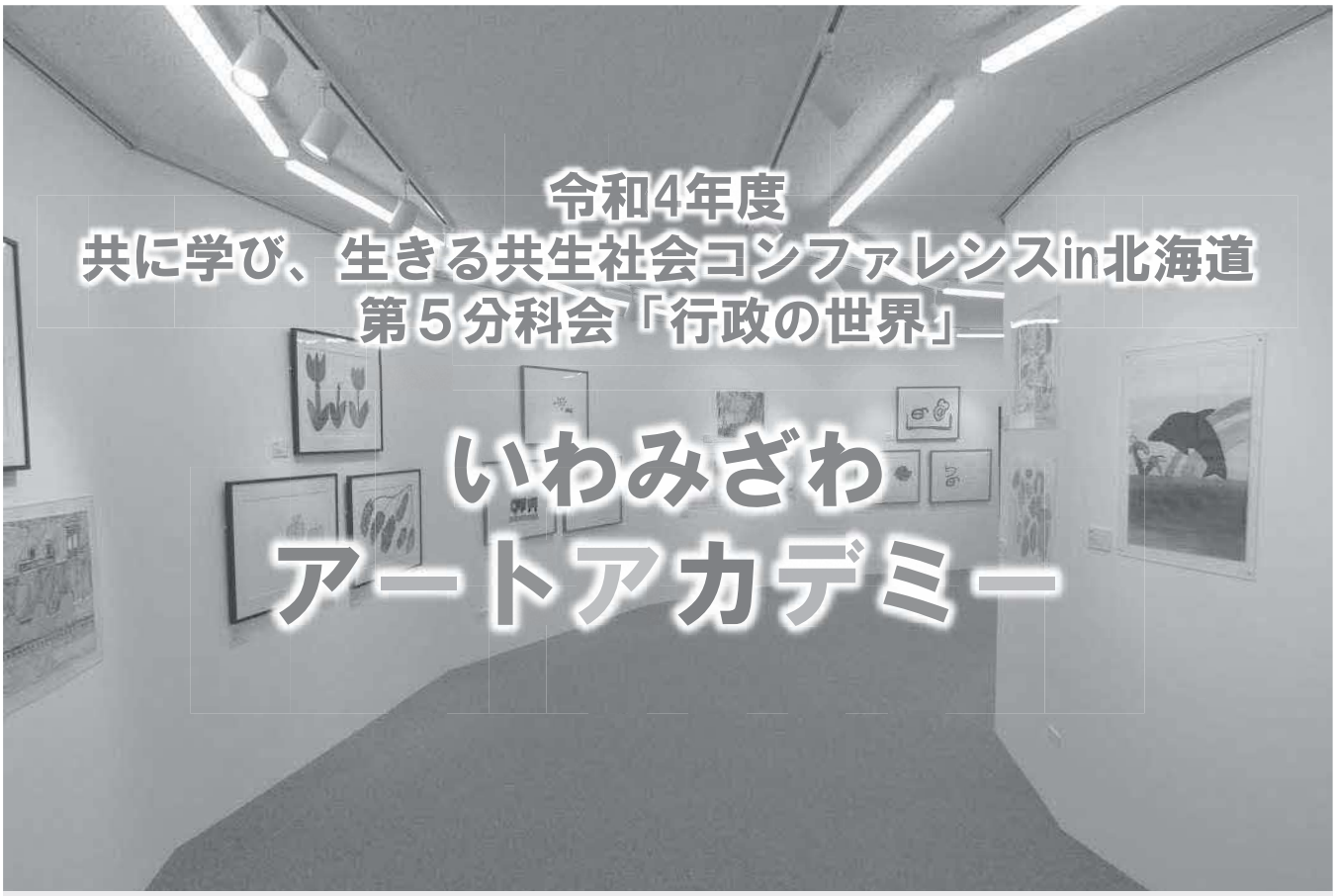
なんと当日飛び入り参加の
即席チームが優勝！初代
ボッチャ王に

みんスポ_アダプテッド・スポーツ体験会

障がい児・者の学びと
健常者の障がい理解へ

みんスポ_アート体験会

膨らむ絵具で、さわって
広がるアートの世界！
視覚障がい者も参加



主催：北海道教育委員会／文部科学省　共催：医療法人稲生会

文化・芸術の重要性

・魅力的なまち

（かつて）道路や下水道が整備されている

（現　在）美しい景観、文化を感じられる町並み

・発展している都市

芸術家、デザイナーなどクリエイターが集積している。

○魅力的なまちづくりを行う上で、都市間競争に勝ち抜くためにも、文化や芸術の素養は、きわめて重要

○単に展覧会やコンサートを実施するのではなく、文化権の保障や地域の創造性を高める事業を計画して実施するための人材＝アートマネジメント人材の育成が必要

元 気 八 策 ２０２０

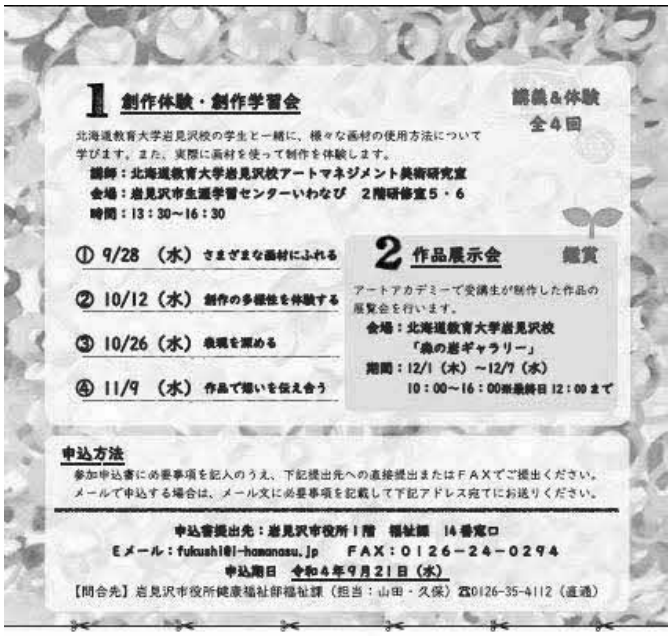
市民が誇れる芸術・文化・スポーツの薫り高いまちづくり

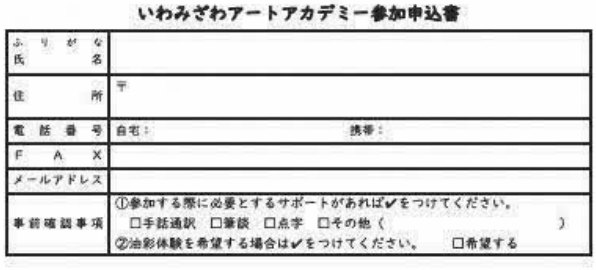
●誰もが芸術文化を身近に親しむことのできる環境づくりと活動を担う人材づくり等への支援
●北海道教育大学岩見沢校の持つ豊かな人材と知的資源を、芸術・文化・スポーツをはじめとする様々な分野で活用
●生の芸術アールブリュット拠点施設について、共生のまちづくりの視点で拠点整備構想づくりに着手
●「オリンピック・パラリンピック」に向けた合宿受入れのほか、将来のトップアスリートをめざす子どもたちや、スポーツ強化活動を力強く支援
●老朽化したスポーツセンターに代わり、市民の健康づくりを推進する新たなスポーツ施設（多目的アリーナ）建設の構想に着手

アートアカデミー実施概要

学校卒業後における障がい者が、北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の開催にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。
【 参加申し込み者：33名 】

①芸術鑑賞学習
②創作体験・創作学習
③展示技術学習
④展示実践学習





いわみざわアートアカデミー参加申込書

ふりがな 氏名	
住所	〒
電話番号	自宅：　　携帯：
ＦＡＸ	
メールアドレス	
事前確認事項	①参加する際に必要とするサポートがあれば✔をつけてください。 □手話通訳　□筆談　□点字　□その他（　　） ②油彩体験を希望する場合は✔をつけてください。　□希望する

アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会

9月28日　さまざまな画材に触れる
10月12日　創作の多様性を体験する
10月26日　表現を深める

毎回、テーマを設定して講座を行い、受講者に新しい発見があるように工夫しました。

北海道教育大学岩見沢校
アートマネジメント美術研究室による講義

画材のことなど、知的障がいのある人にも分かりやすく伝えられるよう写真を活用した資料で解説

専門的な道具を使う油絵も、各テーブルに学生がついて丁寧に説明し、チャレンジしやすいようにしました。
はじめて油絵具をさわる人ばかりでしたが、「絵の具を盛り付ける感覚が楽しい」と一番人気の画材となりました。

・油彩絵の具を用いた技法

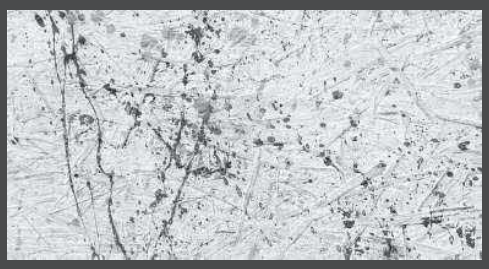
○重ね塗り

絵の具を油と少し混ぜ、それをペインティングナイフでキャンバスに乗せていく技法

とにかく絵の具をたくさん乗せる事がポイント

絵具を立体的に乗せれるのは油彩画の特権！

・水彩、アクリル、油彩で使える技法

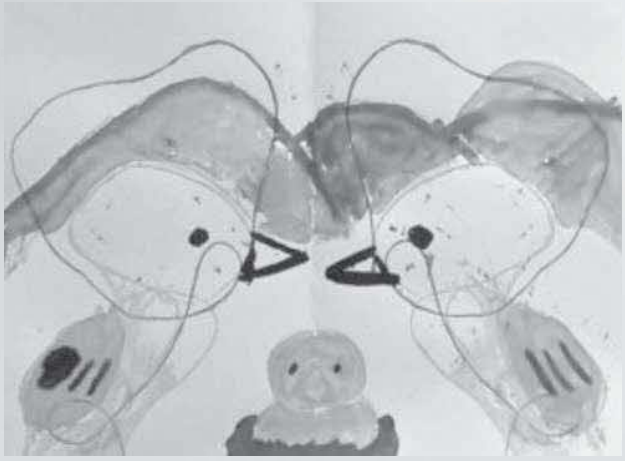


○ドリッピング

絵の具をしたたらせる技法

筆を思いっ切りふって絵の具を飛ばしたり、ストローなどを用いて息を吹きかけると面白いかたちになる

糸引き絵の魅力



・絵を描くのが苦手な人でも、
簡単に制作ができる

・偶然性を生かすことで、普段とは違う
新鮮な表現に出会える

・完成した模様から**想像力を膨らませて**、
新たな創作に繋げられる

アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会

11月9日　作品で想いを伝えあう
～障がい当事者による講義・創作ワークショップ・鑑賞会～

自身も精神に障がいを抱えながら創作活動をしている今恵美子さんが講師となり、自分の体験談や創作にかける想いなどを語り、会場のみんなが同じテーマで創作するワークショップを行いました。

「自由に塗った色から植物のつるを伸ばし、その先に自分が好きなものを描く」というテーマで創作しました。

今恵美子さんが参加者のテーブルをまわって、創作の助言をしました。

アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会

11月9日　作品で想いを伝えあう
～障がい当事者による講義・創作ワークショップ・鑑賞会～

参加者が創作した作品に込めた想いを話し、今恵美子さんが見どころやポイント等を解説
参加者みんなでお互いの作品を鑑賞しあう場としました

アートアカデミー会場の近くにあるギャラリーで開催中の今恵美子さんの個展に参加者が訪れ、今さんご本人の解説も聞きながら、作品を鑑賞しました

アートアカデミー開催の様子

アートアカデミー展示会

Our Life is Our Art !

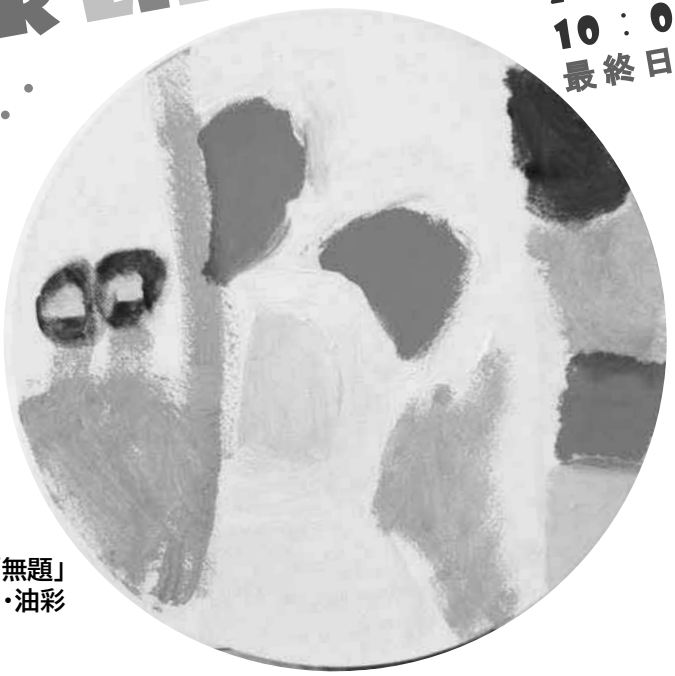
12月1日（火）～7日（金）10時～16時
北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

参加者が創作した作品を、教育大学キャンパス内の「森の岩ギャラリー」に展示しました。
会場内では、今恵美子さんのワークショップで創作した作品とともに、ワークショップ当日の様子を映像で流しました。

いわみざわアートアカデミー参加者作品展示会

OUR LIFE IS OUR ART!

2022/12/1(THU)-12/7(WED)
10：00-16：00
最終日12：00 CLOSE

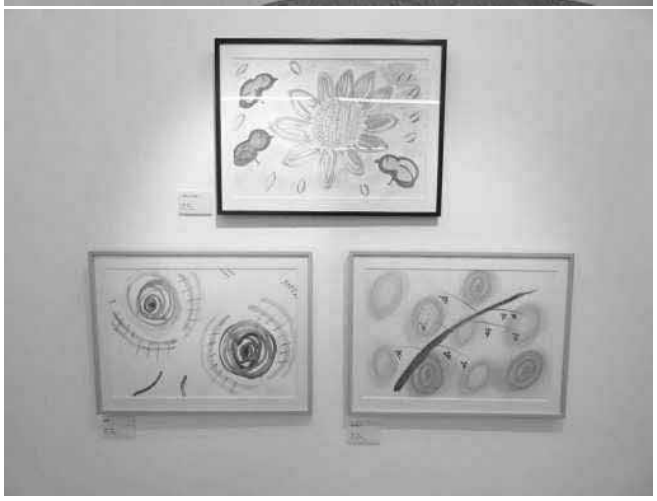


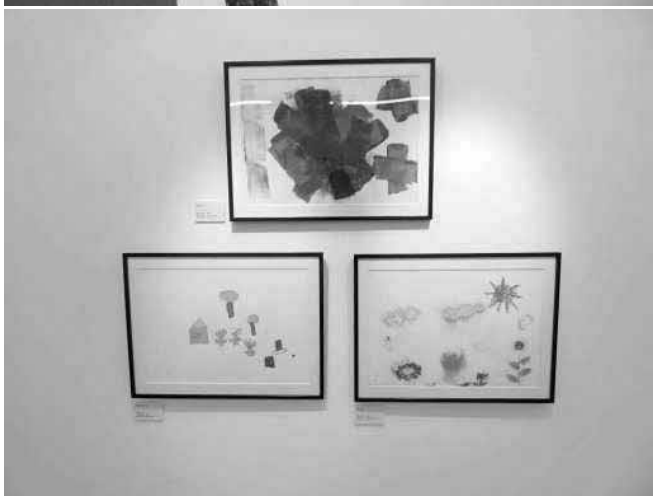
高橋日向「無題」
キャンバス・油彩

北海道教育大学岩見沢校
森の岩ギャラリー

岩見沢市緑が丘2丁目34
北海道教育大学岩見沢校構内

問合先：
岩見沢市健康福祉部福祉課
0126-35-4112（直通）





障がいのある人の学校卒業後の学びとしての芸術文化の可能性

【アンケートでのご意見】

「良かった」、「楽しかった」との声が多かったが、「レベルが自分には高かった」、「もっと創作時間が欲しい」との意見も。

➡前年度よりも創作の時間は長めに設定したが、障がいの特性から描き始めるまでに時間がかかる人もおり、タイムテーブルどおり進まないこともあった。障がいの種別・程度によって、集中して受講できる時間の長さや理解度が異なるので、休憩を多くとったり、個別の支援をしっかりつけるといった工夫が必要。

「障がいのある人が学校卒業後に学びを深めるためにはどんなことが大切か？」

・高いレベルの勉強ができるように、場所とか機会を増やしたらよいと思う。
・一般向けのイベントでも要望に応じて手話通訳を手配するなど、合理的配慮により障がい者を排除しない工夫があるといいと思います。
・人とのふれあいが必要です。
・単会でもこのような機会があることを大変うれしく思います（原文）。

北海道医療大学

「高等教育機関における『障がい者の生涯学習』提供モデルの開発：モデル開発に向けたニーズに関する実態調査」報告

○近藤　尚也、志水　幸、白石　淳
（北海道医療大学看護福祉学部/北海道医療大学先端研究推進センター）

目的　高等教育機関における障がい者の生涯学習の機会提供に関するモデル開発を目指し、その基礎資料とするため、障がい者（主に知的障がい者）にとって、どのような生涯学習の機会が求められているのか、そのニーズについて明らかにしていく。

調査１：北海道における特別支援学校教員へのヒアリング調査　概要
調査２：障害福祉サービス事業所がとらえている生涯学習ニーズアンケート調査　概要
調査３：障がい者本人がとらえる生涯学習へのニーズアンケート調査　概要

倫理的配慮
北海道医療大学看護福祉学部･看護福祉学研究科倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 20N039047）。

本取り組みは、2021 年度北海道医療大学先端研究推進センター採択課題として実施した。

調査１：北海道における特別支援学校教員へのヒアリング調査　概要

Ⅰ．目的

北海道における知的障害を対象とする特別支援学校教員を対象に、教員がとらえる学校卒業後の知的障害者の生涯学習のニーズについて明らかにすることを目的とした。

Ⅱ．研究方法

北海道内の高等支援学校及び特別支援学校高等部７校を対象とし、回答者（進路指導担当教員または管理職）に半構造化面接（対面形式およびオンライン面接方式）によるヒアリング調査を行った。回答は高等支援学校５校（札幌近郊３校、地方地域１校）、特別支援学校高等部２校（地方地域２校）より得ることができた。

主なヒアリング内容の項目

基本情報、生涯学習へ求める内容、生涯学習の際に必要と考えるサポートや工夫、学校教育からの学習の連続性、生涯学習を進めるにあたっての課題、把握しているニーズや課題（本人、保護者）、学校が持っている卒業生に関する生涯学習の取り組みの現状やニーズ情報、生涯学習に関する情報提供のあり方。

得られたデータは、逐語録にして、設問ごとの回答からセグメントの要約を行い、マトリックス表に整理した。さらに、セグメントの要約内容から、セグメントグループの再整理を進め、カテゴリー分類を行った。なお、補足資料として、該当校の学校要覧についても確認した。

表１　カテゴリーごとの回答

カテゴリー		A	B	C	D	E	F	G
基本情報	種別	高等支援学校	高等支援学校	高等支援学校	高等支援学校	特別支援学校高等部	特別支援学校高等部	高等支援学校
	地域	札幌市近郊	札幌近郊	札幌近郊	地方地域	地方地域	地方地域	地方地域
	寄宿舎	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり
	進路割合　一般就労	3分の1	4分の1	4分の3	2分の1	まれ	まれ	3分の2　（進学含む）
	進路割合施設・福祉的就労	3分の2	4分の3	4分の1	2分の1	ほとんど	ほとんど	3分の1
	部活動	あり	あり	あり	あり	なし	なし	あり
	同窓会活動	あり	年に2回（近年はコロナで実施できていない）	年3回たよりを送付	あり	年に１回（多い時は１００名ほど参加）	あり	実施に至っていない
生涯学習へ求めること（ニーズ）と課題	実施場所（アクセス）	・住んでいる地域	・知っている地域だと自力でも移動できるが、そうでない場合は難しい（送迎バスなどもあるとよい）	・生活圏で実施されるとよい。生活圏と違うと距離的には近くてもハードルがある ・慣れない場所に行くのは難しいのではないか	・行きなれた場所（学校や地域の会館など）が良い	・住んでいる地域（近隣）がよい ・送迎があるとよい	・居住している地域	・校舎を活用した活動。 ・行きやすい場（交通利用の在り方は個人差がある）
	費用	5000円～10000円程度までなら出せる	できるだけ低額	低額または無料		低額または無料	低額または無料	
	内容	・資格の取得など（業務につながる）（働いている企業の後押しなどがあってもよいのでは） ・お金の使い方 ・調理など自活につながること	・介護で働いている人は資格を取りたい。パソコン関係などは簿記を取りたいなどの声も聞かれる。 ・人間関係におけるストレスの耐性の在り方（メンタルトレーニング） ・出会いの場としての役割 ・楽しみの場としての役割 ・家から離れて生活について（金銭管理、健康管理、食事など）	・卒後のスキルアップ（資格） ・自由時間の使い方 ・定期的に開催されている方が集まりやすいのではないか・常時入れるきっかけを作るものと、大きなテーマとして実施するものを整理する	・学校で学んだことの学び直しができるとよいのではないか（忘れてしまうことがある） ・人間関係やコミュニケーションについて ・ビジネスマナーなど一般常識の確認（ロールプレイ体験） ・教養として健康管理	・健康面に関すること（体重の増加） ・内容を選択できる環境があるとよい ・土日の開催が良い・フランクにかかわれる、つながりを持てる場所	・社会に出るための経験（アルバイト・バザー、職業体験など） ・コミュニティスクール	・自立する心につながること ・社会生活のイメージ形成 ・異性とのかかわり方
	生涯学習における課題	・キャッシュレスが進み、実感も減ってお金を使いすぎてしまう	・家で過ごすことが多い（スマホなど） ・親の高齢化 ・情報を伝えるだけではつながらない ・そもそも生涯学習に対する関心が弱いのではないか	・入口について本人の自己の受け止めによって変わるのではないか	・連絡が取れなくなる卒業生がいる（何をしているかわからない、暮らしが見えないケース）	・地域によって選択肢が少ない ・生徒によってギャップ（違い）がある ・続ける場、時間、機会がない	・ボランティアや場など地域資源に関するつながりが弱い ・地域のカルチャーセンターなどはあるがハードルが高い ・できる力はあっても気持ちの面からやりたがらないことがある	・仕事に慣れてこなすことで手一杯ではないか ・卒後は仲間とのつながりも希薄になってしまう ・困り感がうまく伝えられるか
	必要なサポート	・本当に打ち込みたい人、初めての人などそれぞれに合った対応	・送迎バスなどのスポンサー（費用が高額だと参加しづらい）	・親も安心して送り出せる場所 ・人と会うことを後押し ・在校時からつながる場	・子どもの状況によって異なる（障害が重い場合は、表示や場所の工夫など） ・相談に対するハードルを下げていく必要性	・自閉的な人は定期的に行われる活動がよいのではないか。	・サポートにはマンパワーが必要 ・自宅の場合、家族も含めた時間帯のマッチ。	・褒められる機会 ・興味をプラスしてどうしていくか
学校教育との連動へ求めること（ニーズ）と課題	学習の連続性	・本人が何をやりたいのかに気付けるきっかけ（部活動などに加わる体験を通した自己分析）	・人とのかかわりにつまずくことがあるため、その点に関する連続性	・部活について一部競技は卒業後にもつながる場合あり	・教材の例など学校で実施した形をいかす ・学校で学んだことを忘れてしまう	・授業と同じような流れの方が入口としてよいのではないか ・新しい単元の学習について、関心の次へのステップ（運動、字を書く機会を増やす、つながりをどう作るかなど）	・余暇・体育活動、休み時間のテーブルゲームなどを実施している（卒後の活動へ） ・作業学習で取り組んだ活動はあまり結びついていない　・学校で学んだスキルを活かす場が少ない	・寄宿舎における指導とのつながり ・生活習慣について（お金、健康管理、歯磨き）、礼儀について、スマホ・ゲームの取り扱いについてなど継続する場 ・授業におけるフィールドワークを通じた情報提供（経験の連動）
	運動やスポーツ関連	・からだを動かすことの成功体験が少ないことも多く、そうした体験を積み重ねること ・部活動の活動を続けたい（バスケットボール、サッカー、陸上）が難しい ・大人のチームに所属でき地域での活動があるとよいが難しい ・全国大会などに参加できるとよい	・学校を卒業すると運動機会がなくなってしまう ・参加できるスポーツ大会などがあるとよい	・卒業後も行いたいがつながっているスポーツは限られているため、部活動で取り組んでいたことが卒業後できなくなる ・マラソン大会を行っていただがニーズはあってもその受け皿がない	・実施されている部活動の延長となる活動 ・スペシャルオリンピックスとのつながり	・部活動はなく、そことの連続性はない ・卒業後に体重増加が多い。学校では運動の機会を意図的に作っているが、卒業後は運動の場がない。 ・福祉サービスに通っている場合、その活動運動などが提供される。	・ウォーキングを取り入れて学校で実施、卒業後も進路先（事業所）で取り入れている ・体を動かすことが嫌いにならないように進めているが、球技などは卒業後にやれる場所がない	・スポーツ活動を通じた地域とのつながり
情報のあり方として求めること（ニーズ）と課題		・SNSなどを活用しているものも多いが、十分に情報につながることは難しい	・情報があっても本人の関心が弱いと参加にはつながらない ・在学中からの情報 ・活動について聞く場が少ない ・相談室など支援機関からの情報 ・企業に務めている人は情報が少ないかもしれない	・情報が少なく届かない ・発信された情報をキャッチできていない ・相談支援機関による情報 ・学校が持っている情報は少ない ・呼び水となる情報の提供が必要	・保護者間の情報が強い ・情報提供の場が必要 ・福祉センターなどを活用した発信	・保護者間で情報を持っていることがある ・ちらし	・保護者が情報を集められる ・検索をしやすい情報整理	・本人の手元に残る形式がよい（用紙やメールなど） ・自治体による広報誌 ・SNSの活用
学校が現在持っている生涯学習に関わる情報		出かけていない	・福祉サービスを活用した余暇活動などに関すること（移動支援や放課後等デイなど）はある。きっかけ作りの重要性	・福祉的就労は関連する活動があるが、一人でできる人（一般就労など）へのフォローは少ないかもしれない ・学校活動の延長で実施している人がいる	・学びの続かなさがある ・困ったときは学校へ連絡する人もいる	学校へ来ている情報はない	・医療的ケア児のサポートをしているボランティア団体はある ・社会経験に関連する活動は放課後等デイなどの活動がになっているのではないか	・地域のクラブに入っている人もいる（多くはない） ・マラソン大会に出場している
学校が受け取った本人・保護者からの声	本人の声	部活動の活動をつづけたい（卒業生も参加している活動もある）	部活動の継続	調理活動（学校だと限られてしまうため）	部活動を継続したい（サポートする側の役割も）	現在実施している活動の継続	アルバイトがしたい	思いはあると思うが聞けていない
	保護者の声			息抜きの場として趣味や学習につなげる	働く場について落ち着いてから考えたい	子どもにとってメリハリがある活動（福祉事業所利用が多いため）	・在学時と同じような活動のリズムを希望。 ・SSTのような活動。	思いはあると思うが聞けていない（学校の特性で親同士の交流が少ない）

Ⅲ．結果

基本情報に関して、卒業生の進路に関して学校ごとに違いがみられた。特別支援学校高等部では、障害が重度である傾向もあり、一般就労の割合が少ない状況であった。また、部活動について、今回の対象であった特別支援学校高等部では実施されていなかった。卒後支援と関連して同窓会活動なども多くの学校で行われていた。

対象ごとのセグメントの要約内容から≪生涯学習へ求めること(ニーズ)と課題≫≪学校教育との

連動へ求めること(ニーズ)と課題≫≪情報のあり方として求めること(ニーズ)と課題≫と≪学校が現在持っている生涯学習に関わる情報≫≪学校が受け取った本人・保護者からの声≫の 5 つのカテゴリーに整理することができた。

≪生涯学習へ求めること(ニーズ)と課題≫

【内容】を中心に先行研究における項目から考察を行ったところ、「日常生活や社会生活に必要な技術の獲得や支援」といった自立生活を進めるうえで獲得するべき実用的スキルへの課題が示唆された。「日常生活や社会生活に必要な技術の獲得や支援」といった自立生活を進めるうえで獲得するべきスキルへの課題を感じており、先行研究においても指摘された学習を継続的に求めていることがうかがえた。

【実施場所】については、住んでいる地域や行きなれた場所など障害者の身近な地域で実施されることがすべての回答で求められており、開催場所に関するニーズと考えられる。知的障害者の生涯学習の機会そのものが少ないため、参加しやすい身近な地域で実施されることがニーズとして挙げられたと考えられる。

【生涯学習における課題】において、特に社会資源が限られやすい地方地域では、地域によって選択肢が少ないこと、ボランティアや場など地域資源に関するつながりが弱いこと、地域のカルチャーセンターなどはハードルが高いことなどが挙げられており、参加しやすい環境の不足が示唆された。また、すでに地域にある機関等は、知的障害者にとって十分に社会資源化されておらず、社会資源が少ない地域でも、障害者の身近な場で参加できる生涯学習活動につながっていくことが期待される。

【費用】に関しては、ほとんどの回答で、低額や無料であることが求められていた。

【生涯学習における課題】では、活動への関心や、やる気、参加のきっかけとなる入り口の課題などについて挙げられていた。

≪学校教育との連動へ求めること(ニーズ)と課題≫

学習指導要領においても学校で取り組んできた内容や身に着けたスキルを卒業後につなげていくことが求められており、生涯学習と学校教育の学習の連続性を持つためには、学校と生涯学習実施機関にて十分な情報共有・情報交換を持つことも必要と考えられる。

また回答に共通して、卒業後の運動の機会の減少について挙げられているが、学校教育の中で運動やスポーツが継続的に行われていることも多く、運動やスポーツを学習の連続性の中で、生涯学習の一つの入り口として活用することは有効な取り組みになりうるかもしれない。

調査２：障害福祉サービス事業所がとらえている生涯学習ニーズアンケート調査　概要

Ⅰ．目的

障害福祉サービス事業所がサービス利用者の生涯学習について、どのような情報を把握しており、また障害者の生涯学習のニーズをどのようにとらえているか明らかにすることを目的とした。

Ⅱ．調査方法と対象

北海道内一定範囲（A 地域とする）の日中活動系障害福祉サービス事業を実施している事業所（主な対象は知的障がい中心)100 事業所を対象とし、事業所における回答者の指定はしなかった。調査は郵送法による自記式質問紙を基本とし、同内容について Web 入力回答も選択可能とした。調査対象は、WAMNET（独立行政法人福祉医療機構公開サ

イト）のオープンデータ（2021 年 11 月末時点）を活用して、対象とした A 地域内からランダムサンプリングを行った。調査結果は単純集計を行った。

Ⅲ．結果

100 事業所を対象として郵送したところ、55 事業所から回答を得ることができた（回収率 55%）。回答があった事業所（55 件）の事業種別は、「就労継続支援 B 型」が最も多く 26 件、次いで「生活介護」14 件、「就労継続支援 A 型」9 件、「就労移行支援」5 件、「その他」1 件であった。

生涯学習に関する各設問への回答は以下の通りであった。

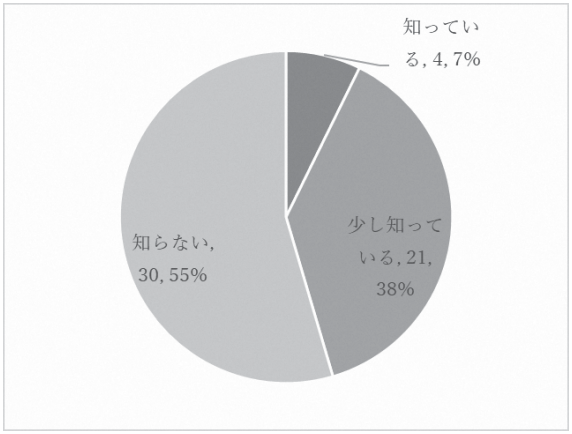


図１　利用者が取り組む活動を知っているか（SA）ｎ＝55

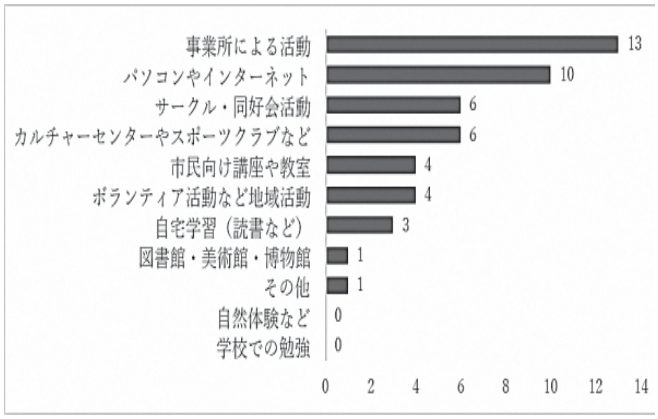


図２　どのような活動に取り組んでいるか（活動を「知っている」「少し知っている」もの）（MA）n=25

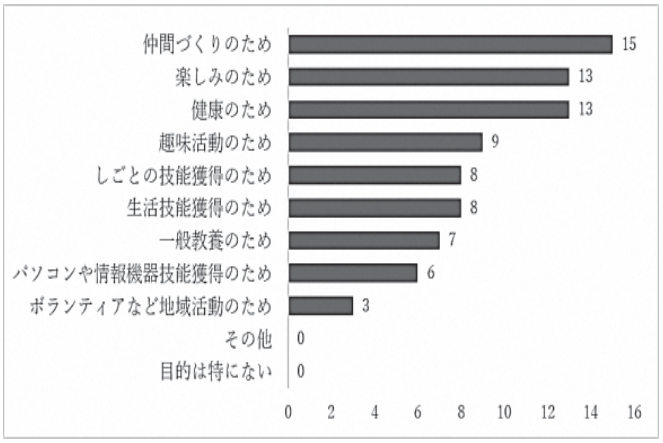


図３　利用者が取り組む目的は何だと思うか（活動を「知っている」「少し知っている」）（MA）　n=25

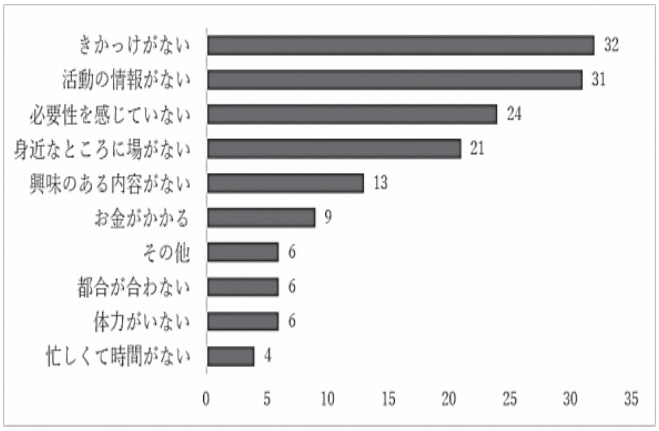


図４　利用者が取り組まない理由は何だと考えるか（MA）n=55

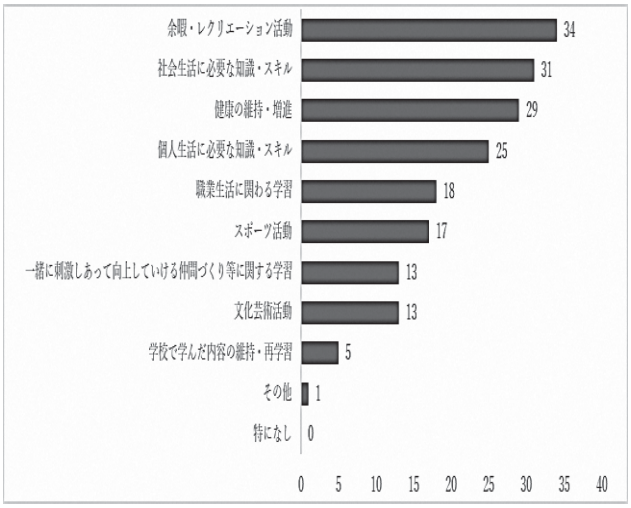


図５ 今後どのような目的の活動が提供されるとよいか（MA）n=55

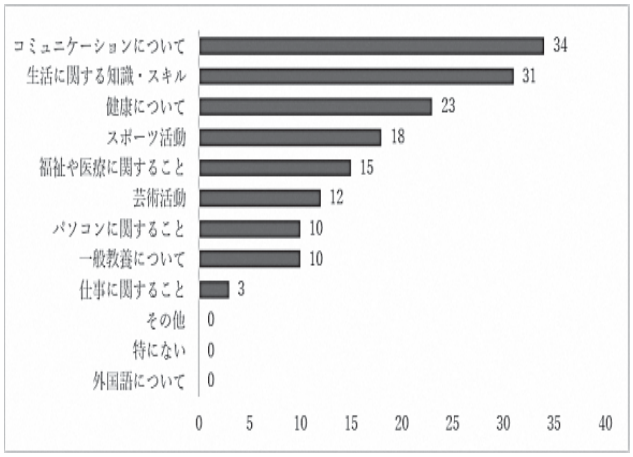


図６　今後どのような内容の活動が提供されるとよいか（MA）n=55

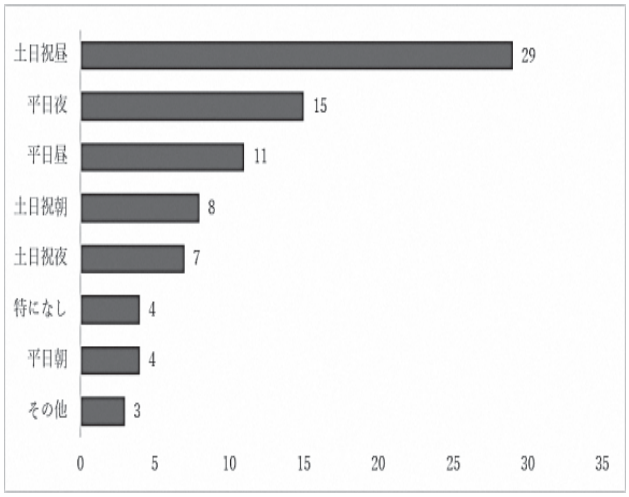


図７　どのような時間帯がよいと思うか（MA）　n=55

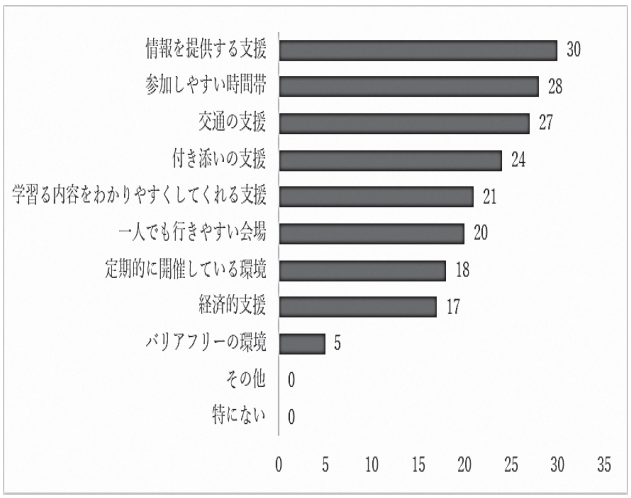


図８　どのような支援や環境があれば参加しやすくなると思うか（MA）n=55

調査３：障がい者本人がとらえる生涯学習へのニーズアンケート調査　概要

Ⅰ．目的

北海道札幌市近郊の地域における知的障がい者本人がとらえる生涯学習ニーズ及び関連した事業所外の生涯学習活動の状況についてアンケート調査を通して明らかにすることを目的とした。

Ⅱ．研究方法と対象

北海道 A 地域に所在する障害福祉サービス事業所５か所に調査用紙を送付し、事業所を利用している知的障がいがある利用者への調査について協力を依頼した（機縁法）。調査用紙は、自記式選択方式（単一回答：SA、複数回答：MA）を中心として、一部に記述の項目を設けた。調査用紙の記入は、本人が記入することを原則としたが、記入に支援が必要な場合には支援者等の手伝いを可能とした。得られた結果は単純集計を行った。

Ⅲ．結果

５事業所に合計 100 件の調査用紙を配布したところ、４事業所から返送され、回収された調査用紙は 57 件であった。

回答者の基本情報についてみると、「年代」は「30

代」が 16 名と最も多く、「40 代」14 名、「20 代」11 名と続いていた。「現在の住まいの状況」については、「家族と暮らしている」ひとが 33 名と最も多く、次いで「グループホーム」21 名、「一人暮らし」2 名、「無回答」1 名であった。

1，生涯学習活動の状況

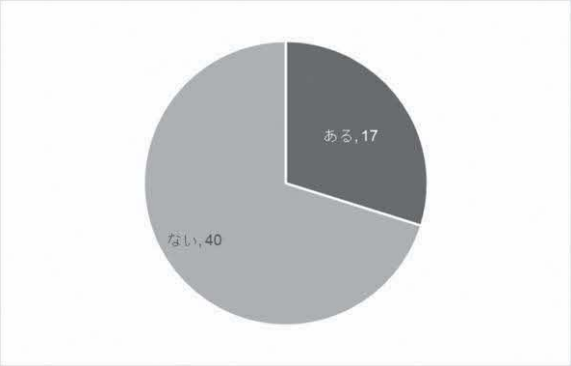


図 9　事業所以外での定期的な活動の有無（SA）n=57

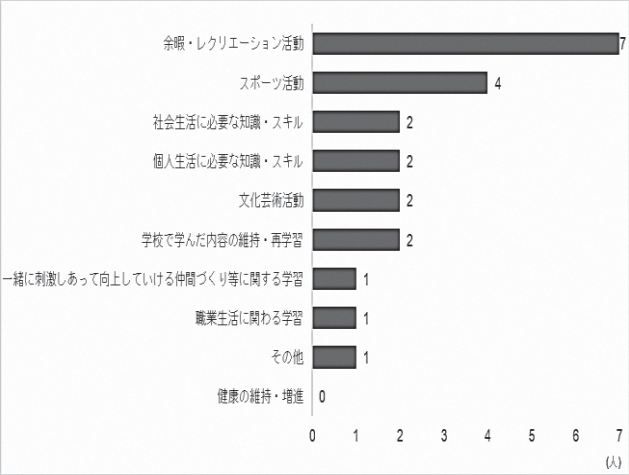


図 10　どのような活動をしているか（図 5 で「ある」と回答したもの）　（MA）n=17

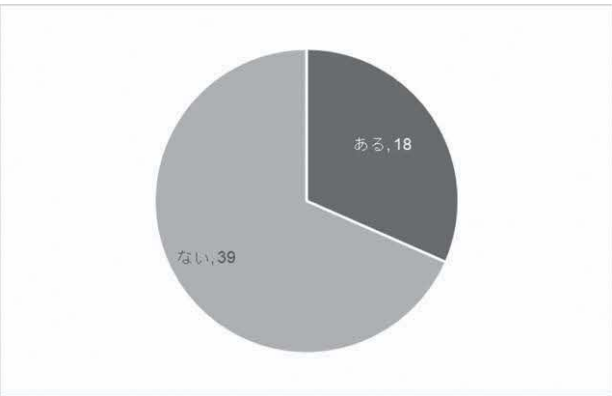


図 11　最近 1 年の間で何か活動したことの有無（SA）n=57

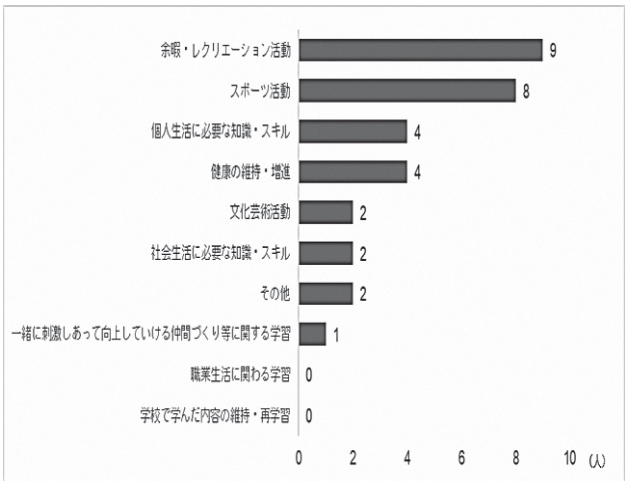


図 12　どのような内容の活動をしたか（図 11 で「ある」と回答したもの）（MA）n=18

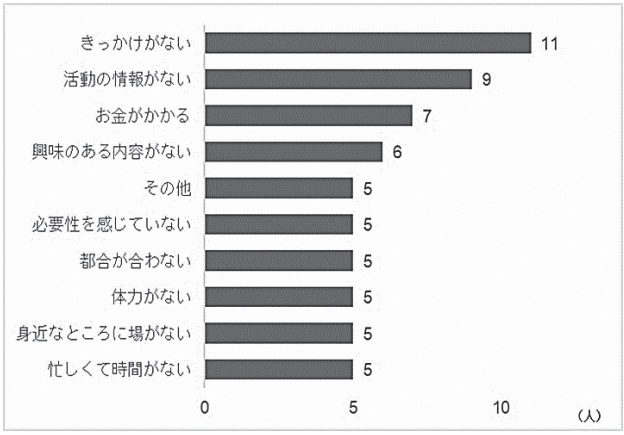


図 13　活動をしなかった理由（図 11 で「ない」と回答したもの）（MA）n=39

2，生涯学習へ求めること

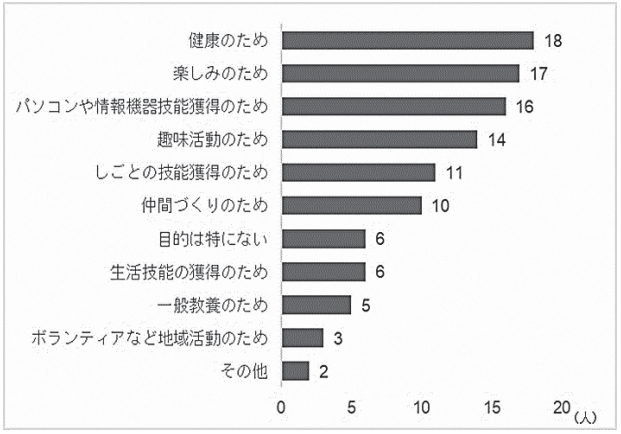


図 14　これから活動をする場合の目的（MA）n=57

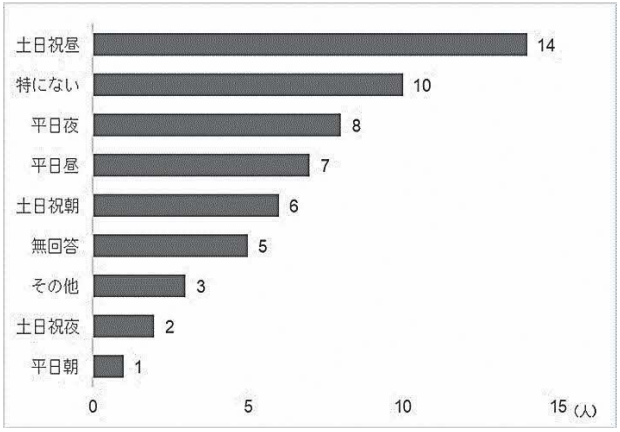


図 15　参加しやすい時間帯（SA）n=57

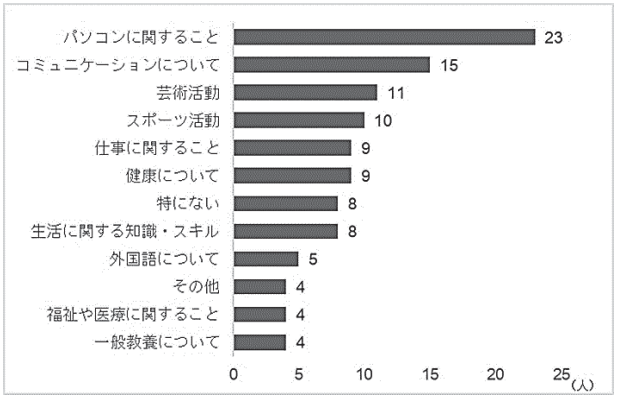


図 17　今後どのようなテーマがあれば参加してみたいか（MA）n=57

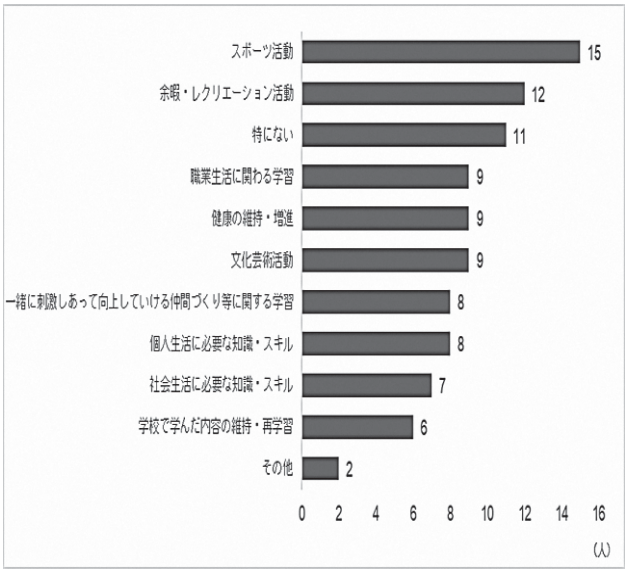


図 16　今後取り組んでみたい活動（MA）n=57

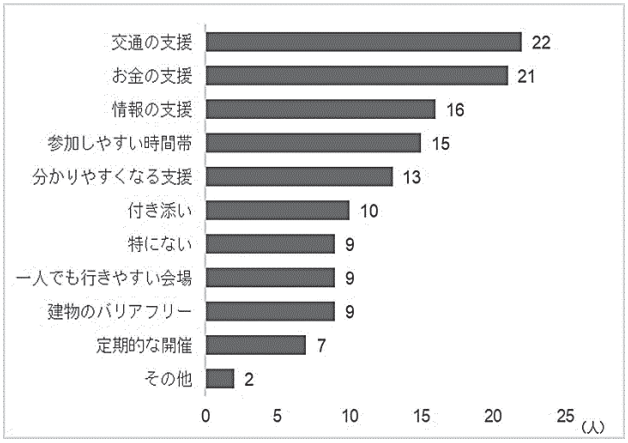


図 18　どのような支援や環境があれば、参加しやすくなるか（MA）n=57

※各調査の詳細については投稿論文として公開（予定含む）

近藤尚也，志水幸，白石淳（2022），教員がとらえる知的障害者の生涯学習ニーズに関する調査－北海道における特別支援学校教員へのヒアリング調査から－，北海道特別支援教育研究第 16 巻（1），33-44.

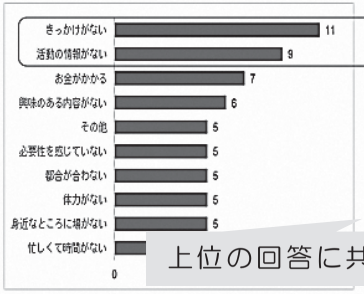
近藤尚也，志水幸，白石淳（2022），障害福祉サービス事業所がとらえている障がい者の生涯学習ニーズ ―北海道 A 地域所在事業所へのアンケート調査から―，北海道医療大学看護福祉学部紀要 29，41-47.

近藤尚也，志水幸，白石淳（投稿中 2023），障がい者本人がとらえる生涯学習へのニーズと事業所外活動の現状―北海道 A 地域における知的障がい者を中心とした本人アンケート調査から―，北海道医療大学看護福祉学部学会第 19 巻（1）.

当事者調査と事業所調査の回答対比（抜粋）

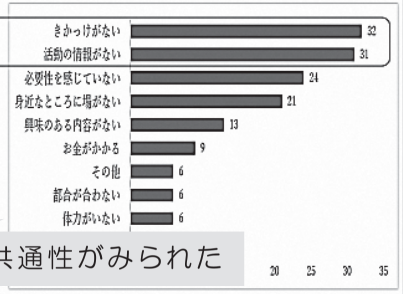
当事者調査

活動をしなかった理由（最近1年活動していないもの）（MA）n=39



事業所調査

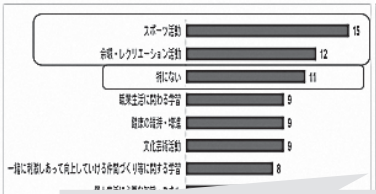
利用者が取り組まない理由は何と考るか（MA）n=55



上位の回答に共通性がみられた

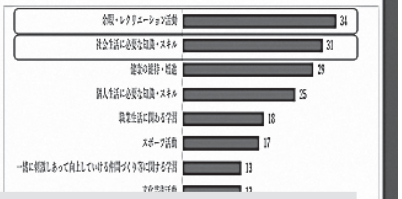
当事者調査

今後取り組んでみたい活動（MA）n=57



事業所調査

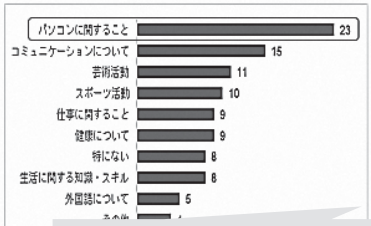
今後どのような目的の活動が提供されるとよいか（MA）n=55



当事者では「スポーツやレク」が高く、事業所もレクが高く共通。一方で、当事者「特にない」、事業所「社会生活スキル」が上位にある

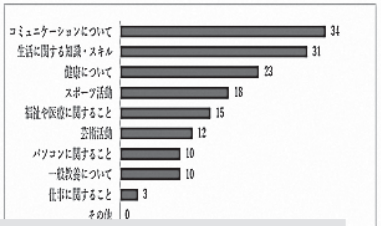
当事者調査

今後どのようなテーマがあれば参加してみたいか（MA）n=57



事業所調査

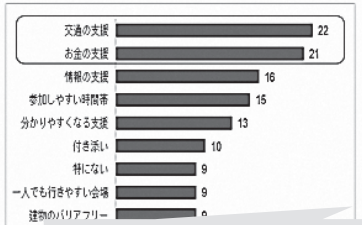
今後どのような内容の活動が提供されるとよいか（MA）n=55



当事者では「パソコンに関すること」が高い特徴があった

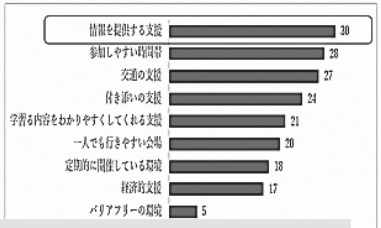
当事者調査

どのような支援や環境があれば、参加しやすくなるか（MA）n=57



事業所調査

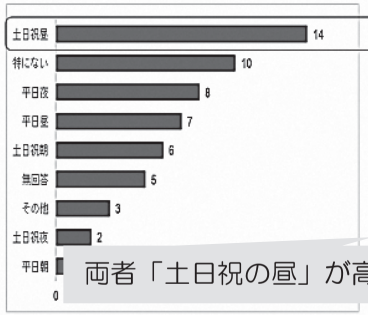
どのような支援や環境があれば参加しやすくなると思うか（MA）n=55



当事者では「交通」「お金」が高いが、事業所では、「情報提供」が上位であった

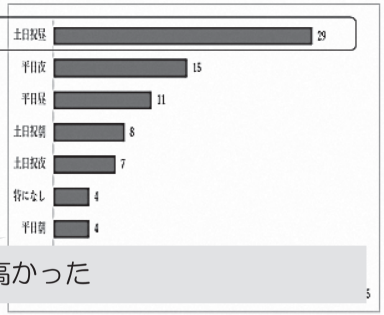
当事者調査

参加しやすい時間帯（SA）n=57



事業所調査

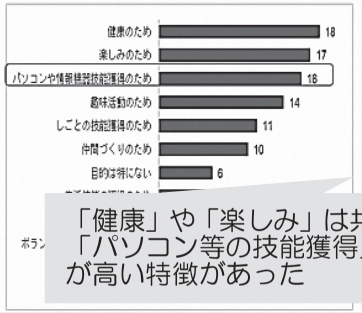
どのような時間帯に活動が提供できるとよいか（MA）n=55



両者「土日祝の昼」が高かった

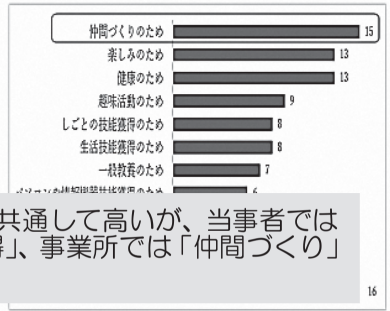
当事者調査

これから活動をする場合の目的（MA）n=57



事業所調査

利用者が取り組む目的は何だと思うか（利用者の取り組みを知っているもの）（MA）n=25



「健康」や「楽しみ」は共通して高いが、当事者では「パソコン等の技能獲得」、事業所では「仲間づくり」が高い特徴があった